

# 2024年度 前期 科目概要

オリジナル科目



## SDGs に基づく新ビジネスの創出 Creation of New Business Based on SDGs

科目提供大学名	関西学院大学
担当教員	向井 光太郎（ハンズオン・ラーニングセンター 准教授）他7名
単位数	2 単位
最大授業定員	40 名
開講学期	前期 1 時限（10：50～12：20）火曜日（4月9日～7月16日）
成績評価	出席、小レポート、グループワークおよび発表への貢献度を総合評価
テキスト	特になし
参考文献	授業中に提示する予定
授業以外の学習方法	新聞等のメディアの情報に関心を向けておく
その他の特記事項	実務家による講義運営
講義概要	わが国のエネルギー政策では「2030年の温室効果ガス・13年度比46%削減、2050年カーボンニュートラル」が明示され、再生可能エネルギー比率を36～38%に引き上げる点が公表されています。政府はSDGsの17目標を意識した政策を展開し、国際社会と調和を図りつつ、新型コロナウイルスで沈滞化した経済状況の更なる脱却を狙っています。本講座では、エネルギー政策の観点からSDGsに即した脱炭素化の動向や新規ビジネスにつながるイノベーションを生み出す思考力の獲得を目指します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本のエネルギー需給構造の実態を把握すること</li> <li>・エネルギー政策・基本計画および目標達成の困難さを理解すること</li> <li>・政策課題を解決するための脱炭素化に向けた技術を理解すること</li> <li>・エネルギー政策を議論する力を習得すること</li> </ul>
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. SDGs とカーボンニュートラル、GX への挑戦（向井・大阪大学 西村 陽）</li> <li>2. 脱炭素への道～技術革新と政策変化（大阪大学 西村 陽）</li> <li>3. 地球温暖化問題と国際社会（国際環境経済研究所 中島 みき）</li> <li>4. 再生可能エネルギーの現実と展望（国際環境経済研究所 中島 みき）</li> <li>5. 電力会社の脱炭素ソリューション①（関西電力 久留島 聡）</li> <li>6. 電力会社の脱炭素ソリューション②（関西電力 久留島 聡）</li> <li>7. 水素社会へのチャレンジ（関西電力 山野 守史）</li> <li>8. モビリティの電動化とまちづくり①（大阪大学 太田 豊）</li> <li>9. モビリティの電動化とまちづくり②（大阪大学 太田 豊）</li> <li>10. シェアリング社会と脱炭素への応用（関西電力 石田 文章）</li> <li>11. 脱炭素に向けた電力ネットワークの革新（関西電力 石田 文章）</li> <li>12. 脱炭素技術の創出とイノベーション（大阪大学 岩田 章裕）</li> <li>13. 電気事業～社会・産業・生活者とのかかわり（関西学院 香川 次朗）</li> <li>14. 企業と生活者の脱炭素チャレンジ①（向井・大阪大学 西村 陽）</li> <li>15. 企業と生活者の脱炭素チャレンジ②（向井・大阪大学 西村 陽）</li> </ol>

前期  
科目概要



### 1. 【代表】向井 光太郎（ハンズオン・ラーニングセンター 准教授）

1968年大阪市生まれ。関西学院大学大学院商学研究科マネジメントコース修  
修士（経営学）。専門はマーケティング、営業、流通チャネル、サービス・マ  
ネジメント。現在、日本マーケティング学会（理事）、Global Sales Science  
Institute、日本キャリアデザイン学会、日本インターンシップ学会、奈良市建築  
審査会委員 著書（共著）「顧客価値創造型営業への進化」（ジェイティービー  
能力開発）

2. 研究活動は、大学を卒業して会社員 6 年目でした。そこで、もっと専門的な知識を得て社会に活かす力を身に付けるべく、勤務時間後に母校の大学院に通いました。1990年代の後半でしたが、学修と職業を両立させるためにリモートワークやモバイルワークをすでに実践していて、これからの働き方を支える基盤づくりの大切さを 30 年前に痛感していました。これからの社会の在り方を探究したビジネス・マネジメントを、皆さんと学び合いたいと考えています。
3. 大学では社会科学系分野においてエネルギーやイノベーションを詳しく学ぶ機会が多くないのが実情です。文理融合に基づき国際的視野からエネルギーをめぐる知見を深めておく必要性は高く、大学生として深く考えて議論ができるように、どんどんコミュニケーション機会を盛り込みながら、お互いのアウトプットが行き交うように授業を進めます。
4. わが国はしばしば「資源小国」と呼ばれますが、すでに水素のような新たな燃料を使った自動車や鉄道車両の製造が実現しています。今後、さらに少子高齢化が進んでいく中で、まちづくりを含めて、どのように環境調和的なビジネスを成長させるかという視点も学んでください。テレビや雑誌、インターネット上のニュース情報、企業の事例などもインプットしておきましょう。